

経済学II(2)

(貨幣資本と現実資本の関係を検討する)
中央銀行とバジヨット
(準備金の意義を検討する)

4. 貨幣的経済理論の系譜

北欧学派

(利子間隔説を検討する)

オーストリア学派

(貨幣の譲渡可能性、貨幣の非国有化などを検討する)

ケインズ

(流動性選好、ルールと裁量について説く)

なお、必ずしも上記計画通り進まない場合がある。
(授業回数はフィードバックを含め全15回とする)

[履修要件]

経済学 I (大黒担当) の連続した履修が望ましい。

[成績評価の方法・観点]

期末試験の成績による (レポート試験の場合はその旨授業で指示する)。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

大黒弘慈 『模倣と権力の経済学：貨幣の価値を変えよ (思想史篇)』 (岩波書店) ISBN:978-4000253208

大黒弘慈 『マルクスと賃金づくりたち：貨幣の価値を変えよ (理論篇)』 (岩波書店) ISBN:978-4000253215

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

比較的早い時期に、経済学史を通覧した簡便な本を通読しておくことが望ましい。経済学史上の古典を一つ選び、講義の進行とともに読み進めると学習効果が上がる。

[その他 (オフィスアワー等)]

詳細な授業計画を、初回に配布する予定である。

[主要授業科目 (学部・学科名)]

総合人間学部